

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE 会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員から、次のトーク者をご紹介頂くという形で、順にリレーしていきます。1 時間の中で、40 分のトーク、20 分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文：今回は、関東甲信越支部の慶野正司さんにバトンタッチします。慶野さんといえば、関東を代表する建築家のお一人ですが、特に今回のレクチャのメインテーマである「吉田村ビレッジ」は様々なメディアで拝見しており、是非ともお話を伺いたいと思っておりました。優れたデザインであると共に、文化継承、まちづくりにおいても大きな到達点ではないかと、興味津々です。いろいろとお話をお聞きしたく、今から楽しみでなりません。

(紹介者：手島 浩之)

第 10 回 2025 年 11 月 18 日 (火) 19:00~20:00

ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/89366822306?pwd=hl1unrcqNkQ1wPtN3goPoz9Cfe02vb.1>

ミーティング ID: 893 6682 2306
パスコード: 567093



プレゼンター

アトリエ慶野正司 代表 慶野 正司

- ・ JIA 会員
- ・ 宇都宮大学 非常勤講師
- ・ 国立小山高専 非常勤講師



1957 新潟県生まれ

1984 アトリエ慶野正司 一級建築士事務所 設立

吉田村ビレッジ・物語

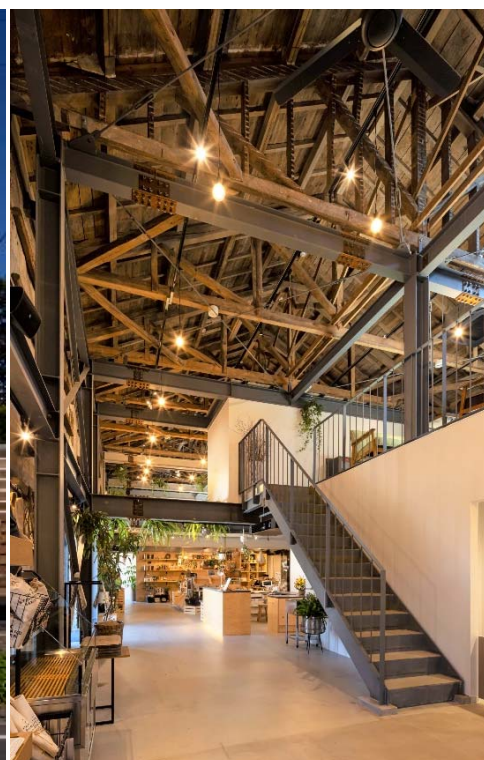
吉田村は古くから農業中心のコミュニティが築かれていた。しかし、地域の中心的存在であった農協の撤退や市町村合併を経て、時代の変遷と共に「ただ不便な田舎」と化し郷土愛すら希薄になってきた。

その状況を憂いた地元の農業従事者、プランナー、建築家などが集い元気プロジェクトを立案。

その活性化策として地域の歴史と共にあった旧農協に残る大谷石蔵倉庫を店舗や宿泊施設にリノベした。ここを拠点施設とし大勢の来場者で賑わい吉田村の進化したコミュニティが再興されつつある。

そんな「吉田村ビレッジ・物語」をご紹介します。

(新建築 2024 年 02 月号掲載)



JCAABE リレートーク

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE 会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員から、次のトーク者をご紹介頂くという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文：今回は沖縄でご活躍されている伊良波朝義さんです。伊良波さんは沖縄文化と真摯に向き合い建築設計活動のみならず積極的にまちづくり活動に取り組んでいらっしゃいます。特に焼失した首里城の再建には一役を担い首里文化の継承にご尽力されてきました。今回のトークでは首里城正殿再建工事の今秋完成にちなんで、「首里の歴史や文化」など首里のまちづくりについてご紹介いただきます。建築家の職能を見つめつつ地域文化との付き合い方などのお話を通して、私達それぞれの地域での職責を考えるととても良い機会になると思います。大変楽しみにしています。(紹介者：慶野正司)

第11回 2026年5月20日(水) 19:00~20:00

ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/83995008311?pwd=qfR1ifO85jT58N12l4zswypXbiJ7ai.1>

ミーティング ID: 839 9500 8311

パスコード: 741502



首里まちづくりの取組み+

プレゼンター：伊良波 朝義 (有)義空間設計工房 代表取締役

1967 沖縄県那覇市生まれ

1990 琉球大学工学部建設工学科 卒業

1990 (株)内井昭蔵建築設計事務所

1997 (有)義空間設計工房 設立

2005 NPO 法人首里まちづくり研究会 設立



2019年10月末、首里城正殿を含む主要9施設が焼失し、大切なものが失われたことでみえてくるものに気づかされました。あれから7年、今年の秋、正殿が完成します。首里はかつて王都として栄えていましたが、戦争により多くの文化遺産を失いました。かすかに残る文化資源やここにしかない魅力的なもの・ことを繋ぎ、住んでよし、訪れてよし、歩いて楽しめる首里城を中心とした周遊型の首里のまちづくりを地域と共につくりあげる活動を紹介します。



JCAABE リレートーク

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE 会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員から、次のトーク者をご紹介頂くという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文：今回は徳島を中心に活躍されている内野輝明さんです。内野さんの建築は、地域の気候風土や自然素材を生かした、心地よい空間づくりを特徴とされています。特に東日本大震災以降は、防災と木造建築を結び付けた研究にも力を注ぎ、柱材のみで構成する「重ね梁構法」を発展させました。この技術は徳島県の応急仮設住宅にも採用され、木材の備蓄と災害対応を両立する新しい木造建築の考え方として注目されています。今回は、地域における建築家の職能のあり方についてお話を頂けるとと思います。（紹介者：伊良波朝義）

第12回 2026年9月3日（木）19：00～20：00

ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/89506536201?pwd=daLKmd5Klcbj7pGOOrbmcyjV6RZPQhn.1>

ミーティング ID: 895 0653 6201

パスコード: 895140



徳島の建築家にできること

プレゼンター：内野輝明 （有）内野設計 代表取締役

1963 徳島県徳島市生まれ
1986 大阪工業大学建築学科 卒業
1986 山本西原建築設計事務所
1990 海外視察
1992 高崎正治都市建築設計事務所
1999 独立



3.11以降、仮設住宅や先行高地移転に見立てた、試行的なプロジェクトに取り組む機会が続きました。南海トラフが防災したら、すぐには十分な支援が届かない、重機すらなかなか来ないであろう例えば徳島県南の漁村集落で、必要な建築を建てるには？道具箱さえあれば人力で建てられるように、軽い柱材だけでできる構法をみんなで考えました。単一部材でどんな建築でも建つなら、「木材備蓄」が可能になるのでは？「林業振興」と「事前復興」を同時にすすめる「ローリングストック」が、小さくですが始まっています。木材流通から考える中規模木造建築の設計にもかかわらせて頂きました。「山と相談する木造建築」が「山と人を守る」。大袈裟ですが、そんな話をさせていただきます。



先行高地移転試行



木材のローリングストック

役員構成

〈理事〉

- ・代表理事: 連健夫(建築家・港区登録まちづくりコンサルタント)
- ・副代表理事: 松村哲志(建築家・名古屋大学講師)
- ・専務理事: 大谷昭二(日本住宅性能検査協会理事長)
- ・理事: 最上義(日本不動産仲裁機構代表理事)
- ・理事: 松本昭(博士(工学)、チームまちづくり専務理事)

〈特別顧問〉

- ・神田順(東京大学名誉教授、建築基本法制定準備会会長)
- ・野澤康(博士(工学)、技術士、工学院大学教授)
- ・三井所清典(建築家、日本建築士会連合会名誉会長)
- ・市古太郎(博士(都市科学)、東京都立大学教授)
- ・青木茂(建築家・リファイニング建築・都市再生協会理事長)

〈幹事〉

- ・日比野大(弁護士)

〈全国支部長〉

- ・北海道支部: 菅沼秀樹
- ・東北支部: 福士美奈子
- ・関東甲信越支部: 慶野正司
- ・東海支部: 鳥居久保
- ・近畿支部: 荒木公樹
- ・中国支部: 山田暁
- ・四国支部: 内野輝明
- ・九州支部: 鰐坂徹

〈相談室・委員会〉

- ・コンペ・プロポーザル相談室長: 山本想太郎
 - ・実装タスクフォース委員長: 成岡茂、副委員長: 片山耕治
- (委員) 菅沼秀樹、福士美奈子、須川哲也、坂井信行、児玉勝斗、所千夏、山田清、伊良波朝義、内野輝明、今野広大、丹羽修、稲垣雅子、加藤仁美、後藤克史、小川貴之

事業内容

JCAABEは、建築まちづくりにおける
社会課題解決型の一般社団法人です。

- ① 良質な建築、美しいまちづくりのための専門家
「認定まちづくり適正建築士」の資格、セミナー
→一級建築士+専門資格を持ち、4つの講義を受け、
審査面談をパスした専門家
- ② 利用者や住民参加などの合意形成を行う専門家
「登録まちづくりファシリテーター」の資格、講座
→30コマの養成講義(演習を含む)を履修し、
審査レポートを経た専門家
*文部科学省委託事業で開発。
*日本建築学会教育賞受賞、日本工学教育賞受賞
- ③ 建築まちづくりのトラブル解決への
ADR(裁判外紛争解決制度)調停人の推薦
- ④ 発注者支援活動:
行政、NPO団体、個人の発注者への様々な相談、支援活動
- ⑤ 良質な建築、美しいまちづくりのための
コンペ・プロポーザル、コンクール活動

会費

- ・正会員(認定まちづくり適正建築士): 8,000円/年
- ・専門会員/正会員(JCAABE承認の専門家・
登録まちづくりファシリテーター): 8,000円/年
- ・準会員(登録まちづくりファシリテーター): 4,000円/年
- ・入会費: 8,000円、登録費: 5,000円
(資格取得講座受講者は入会費・登録費免除)
- ・法人賛助会員: 60,000円/年

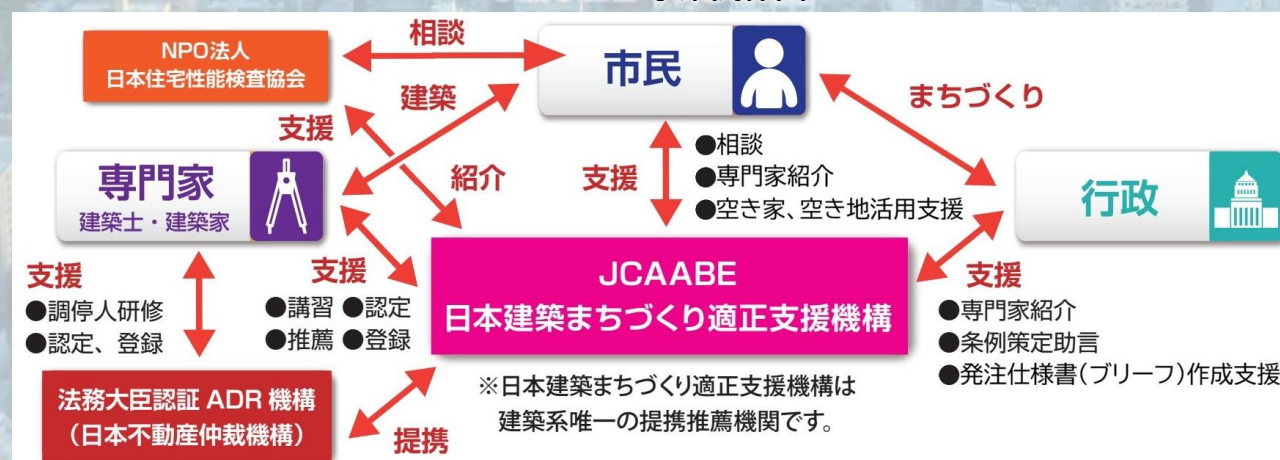
JCAABE
日本建築まちづくり適正支援機構



法務大臣認証ADR機関提携団体

良質な建築、美しいまちづくり
を目指します！

JCAABE 事業関係図



日本建築まちづくり適正支援機構は第三者として支援します。

一般社団法人
日本建築まちづくり適正支援機構
〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町1-11-4
日本橋第二吉泉ビル5階
電話: 03-3524-7224
info@jcaabe.org



JCAABE【発注者支援活動】

分類	番号	支援活動	内容	費用目安
建築企画、 専門家紹介、 リノベ、 耐震化、 空き家、空 き地活用	①	建築企画相談 発注仕様書（ブ リーフ）作成支援	建築の企画段階でのご相談、 設計内容の整理と発注仕様 書作成、設計者選定支援を 行います。	8万～
	②	専門家紹介、派遣、 デザインレビュー 企画運営	建築や不動産、まちづくり の専門家紹介、派遣を行 います。設計の質を評価ア ドバイするデザインレビュー の企画運営を行います。	4万～
	③	改修リノベーション、 耐震化 建て替え相談 空き家空き地活用	改修リノベーション、耐震化、 建て替え等、複数の案を作 作成しアドバイスします。空 き家、空き地活用の提案。	8万～
合意形成	④	ワークショップ 企画運営	市民参加の公共建築整備 でのワークショップ、事前復 興まちづくりワークショッ プ等の企画、運営をします。	20万 ～
地域課題	⑤	区境・景観紛争対 応、支援	行政が介入困難な区境に 発生しがちなマンション 建設トラブルに第三者の立 場に対応します。	30万 ～
制度設計	⑥	まちづくり条例作 成支援	市民参加のまちづくりやデ ザインガイドライン作成な どの条例作成支援を行います。	80万 ～
	⑦	まちづくりファシ リテーター養成講座	JCAABEまちづくりファシ リテーター養成講座を行政、 NPO団体等向けにアレン ジ、運営します。	8万～
	⑧	研修・講演会実施	行政の方、NPO団体、協議 会等に、建築やまちづくり の研修や講演会をアレンジ します。	5万 ～
人材育成	⑨	先進事例見学会・ 視察ツアー実施	建築やまちづくりの先進事 例の見学会、視察ツアーの アレンジをします。	相談

*費用は目安で、ご要望に対してお見積り致します。まずはご相談（無料）ください。

具体事例-A: 気仙沼市、若者支援講演会、ワークショップ

宮城県気仙沼市にて「若者支援と住民参加のまちづくり」と題した講演会とワークショップを実施。



具体事例-C: 港区麻布地区、講演会、ワークショップ



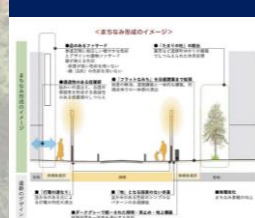
参考事例-E: 「公共建築」寄稿（公共施設整備 における地域の参加）



参考事例-F: 港区事前復興まちづくり



参考事例-I: 大阪・道修町地域景観づくり協定

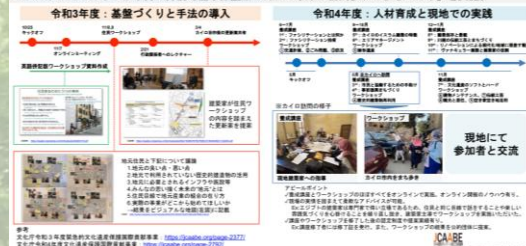


参考事例-J: まちづくり条例作成支援 ／徳島県徳島市万代中央ふ頭



具体事例-B: まちづくりファシリテーター養成講座

エジプトにて「カイロ旧市街の持続可能な保護のための事業／住民参加のまちづくり」を実施。



具体事例-D: ベンチャーカフェ東京トークイベント



参考事例-G: JIA 建築家大会 まち歩きワークショップ とシンポジウム



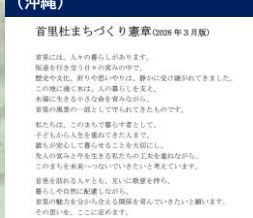
参考事例-H: 市民版災害疑似体験活動(杉並区) ／サバキャン



参考事例-K: 改修リノベーション耐震化 建て替え相談空き家空き地 (徳島)／「支え愛マップ」



参考事例-L: 首里社まちづくり推進協議会 設置とまちづくり憲章作成 (沖縄)



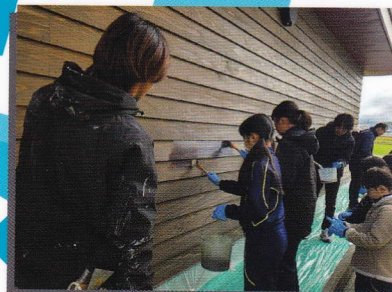
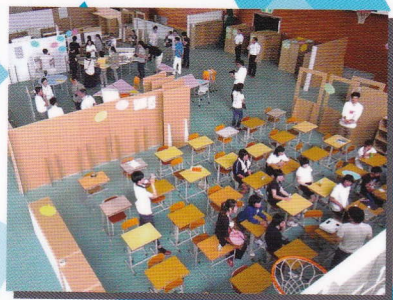
PUBLIC
BUILDINGS

資料 3

公共**建築**

2026.5
Vol.68 No.230

「参加」でつくる公共建築



2026.5
No. 230

CONTENTS

公共建築

PUBLIC BUILDINGS

Vol.68-1 No.230 2026.5 since 1958

「参加」でつくる公共建築

特集に当たって	3
当事者参画による建築物のユニバーサルデザイン	高橋 儀平 — 4
公共施設整備における地域の参加	参加のデザインとファシリテーション 連 健夫 — 10
学校整備における当事者参画について	田中 佳幹 — 18
「陸前高田市立高田東中学校」における住民参加プロセスの取り組み ～被災地復興における対話型設計の概要～	日野 雅司 — 23
星の杜小学校の整備における「児童・教職員・地域」の参画と木育の実践	魚津市教育委員会教育総務課 — 30
「つながる美術館」長野県立美術館	宮崎 浩 — 34
公共建築 INDEX	39
編集後記	68

公共施設整備における地域の参加 —— 参加のデザインとファシリテーション

連 健夫 *Muraji Takeo* 建築家・一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構代表理事

公共施設整備において地域の参加、すなわち利用者である市民の参加が不可欠になっている。その背景と共に、その意味とプロセス、具体的な事例も含め、ワークショップや対話におけるファシリテーションについて、筆者の経験も含めてまとめる。

1. 今、なぜ利用者参加なのか？ その背景

戦後における急激な建築需要と高度経済成長を通してハードとしての公共建設整備が行われた。その中には、中身を伴わず使われていない事例もあり、箱ものの行政との批判があった。この反省、改善の意味で、近年、利用を含め、その質の向上が求められるようになってきた。質には、建築や設備といったハードな面と、使い方というソフトな面があり、その両方の質を上げるべく、市民の参加が求められるようになってきた。これは、日本が成熟社会に向かっていると解釈できる。すなわち、専門家のみでの施設整備ではなく、利用者である市民の意見も取り入れて充実したものを創る視点である。市民参加について、建築行政は都市計画行政より後発である。都市計画では、1992年の都市計画法改正により住民参加が推奨され、都市マスタープランを作成すべく市民参加のワークショップが全国に広がった。つまり、30年以上前から市民参加が行われており、これに比べ公共建設整備での市民参加が一般的になったのは、この10数年であろう。

この動向に1995年問題も捉える必要があるだろう。ウィンドウズ95が爆発的に広がる中、誰でも簡単に専門知識・情報を得ることが可能となり、従来の行政や専門家が持つ専門知識・情報の価値が弱まったともいえる。一方、一般市民が専門知識・情報を得ることにより、同じベースで創造的対話をすることが可能になったのであ

る。このことにより、行政や専門家の役割は専門知識・情報を提供するのみならず、対話を創造的に進める促進者・調停者というファシリテーターの役割が求められるようになってきた。ファシリテーターはワークショップの進行役を担い、課題を分かりやすく説明し、議論をまとめる合意形成などを行う。

2. 市民参加のメリットは何なのか？

- 第1に、利用者である市民が参加することにより使いやすくなる。利用者は設計の専門家ではないが、設計案に対して意見を言うことはできる。それをしっかり設計者が受けとめてデザインすることにより、使いやすく質の高い設計となる。
- 第2に、設計に地域性が加味される。公共施設整備において、その特徴という意味で地域性はとても大切である。住民は地域の専門家とも言え、利用者である地域住民の意見を設計者が捉えることにより、設計への反映が可能になる。
- 第3に、利用者にとって親しみの持てる建築となり、大切に使う気持ちが生じることである。これは誰にでもあるが、関わったものには自然に愛着感が生じる。それが結果として、建築を大切に使うこととなりサステナブルに繋がる。
- 第4に、建設後のクレームが少なくなることである。設計プロセスに関わり、意見を言い、その調整を通して、結果としてクレームが少なくなる。これは、クレーム対応を事前に請け負う行為であるとも言える。

3. 市民参加のデメリットとは何なのか？

市民参加のワークショップをするためには手間と時間が必要である。参加方法の検討と手間が発生する。また、

準備と実施に時間が必要となる。しかし、参加の機会をつくらない実施は、手間もいらず、時間もかからないが、利用者にとっては、一方的に与えられた建築となるため、どうしてもクレームが生じやすい。クレームが生じるとその対応に時間を費やすことになる。この時間は言わばネガティブな対応時間であり、それよりも、設計段階で使うポジティブな創造的時間の方が担当者にとって負担が少ないのは言うまでもない。手間については、最近では、参加のワークショップができる機関や団体があり利用すると良い。

4. 市民参加のデザインの2つの意味

市民参加のデザイン（設計）には2つの意味がある。1つは、「参加型デザイン」で、利用者である市民が参加するデザインである。もう1つは、市民が参加する「機会をつくるデザイン」である。

施設整備のプロセスは、大きく①建築企画→②基本計画→③基本設計→④実施設計→⑤施工→⑥利用、であり、どの段階で市民が参加するのが望ましいのかの検討が求められる。

①建築企画段階での参加は、基本計画に進む前の設計と件づくりに市民が関わることになり、最も川上で市民の意見が加味され望ましい。与件づくりは、デザインなどの専門性を伴わずに文章化できるので市民参加しやすい良さがある。

②基本計画段階では、何をどの位置に設けるといったゾーニングの検討となるため、専門家が案を出し、それを元に市民の意見を求める形になる。複数の案を示し、そこから市民が選択する形が望ましい。専門家がメニューを出し、市民が選択するという参加である。

③基本設計段階では断面や立面検討が加わり、専門家の案を元に市民が検討する形である。基本計画段階の参加と同様、複数の案を出して市民が選択するというメニュー方法が望ましい。立面検討は美観に関わり、地域らしさのデザイン検討になるので結構盛り上がる。

④実施設計段階での参加は専門性が高く、やや難しい感があるが、材料や部分的な検討に参加の機会をつくることができる。材料はサンプルなどの実物を見せて検討する。専門家が解説して選択するという形もあるが、多

くは専門家が選び、市民が理解、確認という形になる。

⑤施工の段階では、塗装ワークショップやウッドデッキづくりなどが可能である。身体を使った参加なので、一緒につくり上げたという参加者の満足度は大である。塗装や大工の職方にやり方を説明してもらうと学びがあり、更に満足度が増す。

⑥利用の段階では、建物完成時に市民参加で使い方を検討する方法である。出来上がった建築空間があるのでイメージしやすい良さがある。これにより、必要な家具を揃える、棚を設ける、黒板を設置するなど、使いやすくする手立てにすることも可能である。

5. 市民参加の方法／ワークショップ

参加の方法には様々なものがあり、その目的に応じたやり方が望まれる。主だったものをあげ、その特徴を述べる。

①まち歩きや敷地訪問

1グループ10名～15名くらいで街を歩き、街のタカラ（良さ）とアラ（課題や問題）、など街の特徴を把握するのが目的である。あらかじめ写真係、指示棒（ポインター）係、時間係、メモ係を決めておく、途中で役割を交代すると不公平がなくなる（写真1）。ファシリテーターは適宜、「これはどうでしょうか？」と会話のきっかけをつくる。公共建築整備において、街の特徴や周辺環境の把握は大切で、事業の当初に実施するのが望ましい。敷地訪問は実体験として広さや周辺環境が理解できる。事業の初期段階や基本計画の検討時に実施するのが効果的である。



写真1
タカラとアラを
指示棒（ポインター）
で指摘する

②コラージュ（切り貼り絵）

理想の〇〇などのタイトルで、皆で切り貼り絵をつくり、参加者のイメージを共有する。1グループ、5～10名くらいで模造紙などの台紙に、雑誌などからの切り抜きや、コメント、イラストなどを用いて自由に作成する（写真2）。皆でつくるので満足感がある、イメージなので反対意見が出ない、子供も含め誰でも参加できるといった良さがある。事業の初期段階で実施すると効果的、グループの発表は自分たちのつくったコラージュの発表なので盛り上がる。



写真2
理想のさくらの家の
コラージュをつくる

③KJ法

付箋にコメントを記入してまとめる方法で、この手法を編み出した川喜田二郎氏のイニシャルからKJ法と呼ばれている。1つの付箋に1つの意味、言葉を書くことで分類が可能となる。分類は関係するものをグルーピングしてタイトルをつける方法と、あらかじめ枠を設けて、該当するものを貼り付ける方法があるが、後者の方が分類しやすい。例えば、縦軸をハード（建築、設備、道具など）とソフト（人、お金、制度など）、横軸を良い点と問題点で4つの枠を設ける方法である（写真3）。



写真3
4つの枠を設けて
付箋を貼り付ける

④グループ討議

多人数の場合はどうしても意見が言えない人が発生しがちである。それを避けるべく、5～10人のグループで話し合う形である（写真4）。話し合った内容を発表し、他のグループと共有する。全体の進行を担う全体ファシリテーターとグループの進行を担うグループファシリテーターを設けて実施する。話し合いのまとめは模造紙などの台紙に、KJ法を使ってまとめたり、討議で得られたポイントを箇条書きにしたりする。



写真4
グループに分かれて
ディスカッションする

⑤旗揚げ

大人数で行う場合に適した方法である。参加者に〇と×の棒を配布し、質問に応えるという形で進める（写真5）。A、B、Cの棒を用い、「Aは何々、Bは何々、Cは何々、として該当するものを上げてください」というやり方もある。どれが多いのかなど、カウントする役割が必要である。大人数でも参加した感があり、参加満足度が得られる良さがある。



写真5
〇と×の棒を持ち、
該当するものを
上げる*1

⑥デザインゲーム

まちづくりの実践家、ヘンリー・サノフが開発した方法で、参加者が楽しめるゲーム的手法をまちづくりの疑似体験に応用したものである。アンケートカードやすぐ

ろくなど様々なやり方がある。建築家のファシリテーターがブロック模型を敷地図に置き説明することで、参加者が敷地の特徴や建物との関係を理解し、話し合いの下地をつくることができる（写真6）。



写真6
敷地図にブロック模型を乗せ、話し合う

6. 利用者参加の事例

本当の利用者が参加することが大切である。幼稚園であれば幼児、小中高等学校であれば児童、生徒、専門学校や大学であれば学生、市民図書館や庁舎であれば市民といった具合である。これは、形だけの参加のプロセスではなく、利用者参加の中で得られたものを活かすという意識が何より大切である。

事例1 市民（利用者）の参加

「湘南台文化センター」（1989・建築家：長谷川逸子）

設計コンペで選ばれた案を元に、市民との意見交換会を何度も実施し、子供文化センター展示物の公募など市民と一緒に考える設計が行われた（写真7）。これにより、第二の自然の創出というコンセプトを維持しつつ、市民からの要望が空間設計に反映させた市民参加の草分け的な事例である（写真8）。

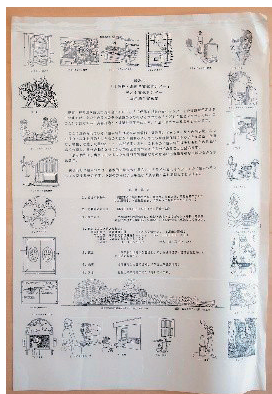


写真7
子供文化センター展示物の公募案内*2

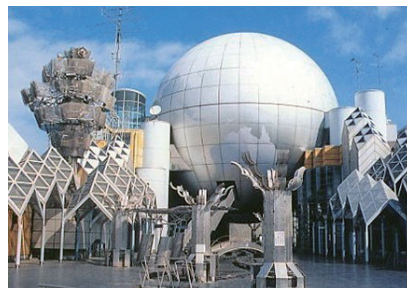


写真8
第2の自然を表現した近未来的外観

事例2 児童（利用者）の参加

「白石市立白石第二小学校」

（1996竣工・建築家：芦原太郎、北山恒）

事前に、児童、保護者、教師など1,400人の意見交換会（ワークショップ）が行われ、そこで得られたことを与件として設計された事例。基本設計段階では模型を用いて、意見交換が行われ実施設計に反映された（写真9）。教室を仕切る壁は四周とも可動でフレキシブルであることや（写真10）、体育館を昇降口と連続させた大きなエントランスホールなど、開放的空間が特徴で、この成功事例により、設計のためのワークショップが広がった。



写真9
児童参加で行われたワークショップ*3



写真10
各教室が家のような特徴あるデザイン

事例3 市民（利用者）の参加

「大船渡市民文化会館・図書館リアスホール」 (2008竣工・建築家：新居千秋)

プロポーザルコンペで選ばれた案を元に、市民参加のワークショップが行われた。当初から「みんなで大船渡市民文化会館を創る会」が発足し、市内を調査するまち歩きツアーや基本設計ワークショップが行われた。これらを通してリアス式海岸を活かしたユニークな建築デザインとなった（写真11）。東日本大震災時に住民が逃げ込み、避難所として機能したことから、市民参加のワークショップが住民にとって身近な施設となり、それが日常時のみならず、非常時においても役に立つことが認識された（写真12）。



写真11
リアス式海岸をヒントにデザインされた



写真12
東日本大震災時、有効に使われた

事例4 市民（利用者）の参加

「町田市庁舎」(2021竣工・建築家：横文彦)

新庁舎の建設において、市民参加による庁舎問題の検討→基本計画の検討→基本設計の検討、の全プロセスで市民参加が行われた（図1）。基本設計の検討では、検討原案をもとに、広場と緑地、市民協働空間などテーマを設定して検討が行われた。建設用地の見学、模型を使った検討、先進事例の検討など設計内容に直接結びつく具体的検討が、議会、市民、行政、学識経験者の協働で行われた好事例である（写真13）。

図1 市民参加のプロセス*4



写真13
広場や緑地を含め
参加のデザインが
なされた

事例5 幼児（利用者）の参加

「白鷗幼稚園おもちゃライブラリー」 (2005年竣工・建築家：連健夫)

おもちゃの持つ情操教育の効果から、白鷗幼稚園の増築としておもちゃライブラリーが計画された。最初に館長に理想のおもちゃライブラリーをテーマにコラージュをつくってもらい、そこから丘と一体になった建物自体がおもちゃというコンセプトを設定した（写真14）。幼児の参加の機会をつくるべく、ガラスの衝突防止のカラーフィルムづくりワークショップや滑り台の位置決めワークショップを実施した（写真15）。コラージュの有効性や幼児も参加可能であることが確認できた事例。



写真 14
丘と一体になった
特徴的なデザイン



写真 15
子供たちが
ガラス衝突防止フィ
ルムを貼る

事例 6 学生（利用者）の参加

「ルーテル学院大学新校舎」

（2005 竣工・建築家：連健夫）

臨床心理学科設置に伴う新校舎の計画にあたり、先生方へのヒアリングと共に、学生参加のワークショップを実施した。既存校舎が巨匠・村野藤吾設計であり、学生参加で既存校舎の勉強会を行い、既存校舎のタカラとアラのワークショップを実施、その後に理想の新校舎をテーマにコラージュワークショップを実施した（写真 16）。施工段階での参加の機会として、陶芸家を招いてタイルづくりワークショップを実施した。タイルはエントランスやルーフデッキの床に貼られ、手づくり感のある建築となった。学生参加により特徴ある建築が生まれたのみならず、参加学生の学びの機会になった事例（写真 17）。



写真 16
理想の新校舎を
イメージした
コラージュ



写真 17
十字架や木質感
などを活かした
デザイン

事例 7 児童・生徒（利用者）の参加

「ゆりかご園心理療法棟」

（2007 年竣工・建築家：連健夫）

児童養護施設に付属する心理療法棟の建て替えにおいて、利用者である児童・生徒の参加の機会をつくった。計画段階で、スタッフによるゾーニング検討の後、子供たちとコラージュ大会を行った。そこで得られた心の拠り所を表現したコンセプト模型をつくりスタッフと話し合いながら基本設計を行った。建設時には、子供たちに、地鎮祭、上棟式など儀式への参加と共に、床の墨入れワークショップ、塗装ワークショップなど施工参加の機会をつくり、親しみの持てる建築となった（写真 18）。参加のデザインが参加者に心の拠り所を与えた事例（写真 19）。



写真 18
子供たちによる
塗装ワークショッ
プ



写真 19
父性（大黒柱）、
母性（包む）を
コンセプトに設計

事例 8 スタッフ（利用者）の参加

「隠岐の島海士町 農林水産物加工施設」

（2009竣工・建築家：連健夫）

増築計画であり、既存建物を考えるワークショップをスタッフと共にKJ法を実施した。次に理想の施設をテーマにコラージュワークショップを行いイメージの共有を図った。そして3つのコンセプト模型をつくり、区長や行政担当者を含め投票を行った。一番多かった案を元に基本設計を行い意見交換した。施工では、壁の断熱材代わりの新聞詰めワークショップ、塗装ワークショップ、ウッドデッキづくりワークショップ、完成後には使われ方ワークショップを行うなど、皆で創った建築として愛着の持てる建築となった（写真20）。多くの市民参加の中で、皆で創ったという意識が醸成され、その意識がまちづくりにも繋がった事例（写真21）。



写真 20
住民参加の
壁の古新聞詰め
ワークショップ



写真 21
外壁の色は
投票で決めた

7. まちづくりファシリテーター （対話を創造的に進める専門家）

1940年代後半に用いられ始めた言葉で、当初はグループカウンセリングにおけるプログラムの進行役として全体をまとめる役割を示していた。それが会議で発言を促したり、話の内容を整理し共有する役割や、まちづくりでの参加者の様々な意見をまとめる役割などに繋がって

いる。課題を達成すべく公平な立場に立ち、専門家の言葉を分かりやすく解説し、市民のつぶやきを意味ある言葉に翻訳するなど、様々な意見をまとめていく促進者、調停者の役割を担っている。ワークショップでは全体をまとめる全体ファシリテーター、グループを担当するグループファシリテーターが配置される。このファシリテーション技術を学ぶ講座は「JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構」で実施されている（表1）。（2019年～20年度文科省委託事業で設置、高等教育機関や社会人向けオンライン講座などを実施している。2022年～23年度文化庁委託事業として、エジプトの建築家に講座を行い住民参加の保存まちづくり事業活動等を含め、2024年度日本建築学会教育賞を受賞した。参考図書：『建築系のためのまちづくり入門』学芸出版社。URL：<https://jcaabe.org/>）

8. 建築の民主主義、ウェルビーイングの視点

参加のデザインは利用者が関わることに意味がある。これは建築やまちづくりの民主主義に関係し、利用者の視点を話し合いの中で取り入れ、より質の高いものにしていくことに他ならない。「面倒だ!」と思われる方もいらっしゃるが、創造的対話ができる成熟社会にしていくことに異存をはさむことはできない。

「建築や街が、住む人や使う人の幸せに繋がっているか?」という問いがある。建築行為やまちづくりのクライテリア（判断基準）にその視点が求められるようになってきている。ウェルビーイングについて、WHO憲章では、〈肉体的にも精神的にも社会的にも満たされる状態〉としており、日本政府2020年の骨太方針では、〈人々の満足度〉としている。心理学者マーチン・セリグマンはウェルビーイングの構成要素として、ポジティブ感情、積極的な関与、良好な人間関係、意味ある人生、達成感覚をあげている。参加のデザインは、参加のプロセスを通して人の繋がりをつくり、世の中の役に立っているという貢献感の中で、建築やまちづくりの創造に関わることになる。すなわち、地域の参加が利用者の幸せやウェルビーイングに繋がると捉えることができよう。

表 1 まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム構成 (JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構)

	分野・領域	プログラム名	内容・ねらい
1	総合	建築から街へまちづくりファシリテーターとは何か？	まちづくりファシリテーターの概要を理解する
2	B、都市計画	都市計画の変遷と住民参加の重要性	都市計画の歴史の中での住民参加、専門家、ファシリテーターの役割を学ぶ
3	B、都市計画	まちづくりファシリテーターのコミュニケーションスキルと実践	まちづくりファシリテーターのコミュニケーションスキルと実践を学ぶ
4	B、都市計画	【実践】 コミュニケーション技術演習	ロールプレイやディベートを通してコミュニケーションのスキルを習得する
5	C、合意形成ワークショップ	目標イメージ共有のためのワークショップ	まちづくりの目的に応じた手法、参加対象や募集の方法、実践スケジュールの立て方を理解する
6	C、合意形成ワークショップ	目的に応じた合意形成の手法・プロセス	まちづくりの具体的な手法を学ぶ、自己紹介、合意形成、街歩き、KJ法、コラージュの方法を理解する
7	C、合意形成ワークショップ	【実践】 ワークショップ演習 (KJ法・コラージュ)	KJ法、コラージュづくりを実際に行い、プロセスと留意点を学ぶ
8	B、都市計画	地域特性を活かすルール、規制や法律、まちづくり条例とは？	なぜまちづくりにルールが必要なのか、地域特性を活かすルール、規制、法律、まちづくり条例について学ぶ
9	E、修復・防災・エネルギー	自然災害にそなえる事前復興まちづくりの方法論	事前復興まちづくり訓練、防災やフェーズフリーデザインを理解する
10	E、修復・防災・エネルギー	【実践】 事前復興まちづくり演習	事前復興まちづくりワークショップの演習
11	A、建築デザイン	建築・まちづくり実践と建築士の役割	事例を通して建築とまちづくりとの関係、建築士の多様な役割を学ぶ
12	A、建築デザイン	建築設計における参加のデザイン	建築設計における参加型の設計プロセスを事例を通して学ぶ
13	A、建築デザイン	【実践】 参加型デザインによる実例見学	参加型の設計プロセスによってできた事例を訪問、見学し、利用者へのヒアリングを含め、学ぶ
14	A、建築デザイン	リノベーションまちづくりの動きと実践	リノベーションとは何か？まちづくりとの関係、事例を通して学ぶ
15	A、建築デザイン	【実践】 リノベーション技術・実習	リノベーションの演習課題を行い、それを通して、スキルの習得と共に留意点を学ぶ
16	E、修復・防災・エネルギー	自然環境・エネルギーを取り巻く状況とまちづくりとの関係	SDGs とまちづくりの関係、エネルギーとまちづくり、省エネ技術について学ぶ
17	E、修復・防災・エネルギー	【実践】 エネルギーとまちづくりの実践	スマートタウンの実践事例を通して、エネルギーとまちづくりを捉える
18	A、建築デザイン	耐震化、不燃化、インスペクションの実際	インスペクション、耐震化、不燃化の技術、方法、助成制度の仕組みについて各種構造別に理解する
19	A、建築デザイン	【実践】 インスペクション演習	インスペクション、耐震化と不燃化の技術を用いた演習を行う
20	E、修復・防災・エネルギー	地域資源としての文化財の保存と活用	保存、修復とまちづくり、歴史的建築物と近代建築の保存、利活用を学ぶ
21	E、修復・防災・エネルギー	【実践】 修復実例見学	保存、修復事例を訪問、見学する。関係者からの説明を含め現状の課題を理解する
22	D、不動産・経営・税	建築と不動産、エリアマネージメントをつなぐ基礎知識	建築と不動産、経営、税金についての基本を理解する
23	D、不動産・経営・税	【実践】 建築と不動産演習	建築と不動産、経営等を捉えて、演習を行う
24	D、不動産・経営・税	宅建士に学ぶストックさせないマッチング術	今後の不動産業、宅建士の役割、マイナス不動産の活用を学ぶ
25	D、不動産・経営・税	【実践】 今後の不動産、宅建士演習	不動産業の初歩的実務の演習を行い、その特徴と留意点を学ぶ
26	B、都市計画	人口減少社会における空き屋・空き地という課題	空き家空き地の課題、その解決策、行政の対応や助成制度、担い手について学ぶ
27	B、都市計画	【実践】 事例見学	空き家空き地の活用事例の見学
28	総合	まちづくりフィールドワーク実習①	課題出題
29	総合	まちづくりフィールドワーク実習②	発表 (グループ別でスマホ撮影したものを使う) とディスカッション
30	総合	まちづくりフィールドワーク実習③	講評会



講義



実践 (演習・見学・まち歩き・合意形成ワークショップ)



まとめ

出典

* 1 : 長岡市和島村島崎、良寛の里街並づくり (三井所清典、JCAABE 認定まちづくり適正建築士セミナー)

* 2 : CCA 市民と考える建築家 (撮影 : 大町晃平、資料提供 : 長谷川逸子建築計画工房)

* 3 : 芦原太郎建築事務所提供

* 4 : 町田市ホームページ、『広報まちだ』『新庁舎建設特集号』(原図を基に編集室で制作)

JCAABE

建築まちづくりコンクール
+ 学生プロジェクト
デザインコンペティション
Architecture & Machizukuri
Design Contest 2026

テーマ

いま もしも
日常と非常時を
つなぐデザイン
2026

募集締切
応募締切

9/15 Tue.

応募ご予定の方からの多くのご要望を受け
登録締切

~~8/31~~ → 9/15

賞
最優秀賞 各部門 1点/賞金10万円
作品展示会における展示
「住まいのGoodAirEXPO」発表(学生部門最優秀のみ)
審査員賞 各部門6点/賞金3万円
作品展示会における展示
入賞 各部門 3点
公開審査会・作品展示会における展示

日程
9月15日 ~~8月31日~~ 応募者 データ登録
9月15日 作品 データ登録
9月30日 一次審査結果発表
10月25日 公開審査会
11月 5日 住まいのGoodAirEXPO
11月19日 作品展示会(東京TONKAN)
11月24日
※11月22日 トークイベント

公開審査会
10/25
日時 2026年10月25日 (Sun.)
学生部門 10:00~12:30
12:30~13:30 懇親会
一般部門 14:00~17:00
17:00~18:00 懇親会
会場 総合資格学院 新宿校
東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル3F

本コンクールは、すべての生活環境をより安心で優れたものとしていくために、まちづくりにおいて自然災害などの「非常時」に備えるだけではなく「日常」においても生活の豊かさ結びつくような建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのアイデアを広く公募し、表彰を通して社会に発信していくことを目的とするものです。

これまでのまちづくりにおける「防災」が、非常時への最も効果的な備えのために日常に負荷をあたえるような施策になりがちであったことに対して、よりゆるく、楽しく、日常も豊かにしながら非常時にも役に立つようなアイデアをとりいれ、「防災」という概念自体をリデザインしていこうという試みですので、既存の概念や原則にとらわれず、自由なお考えで積極的にご応募いただければと存じます。

JCAABE建築まちづくりデザイン・コンクール + 学生プロジェクトデザインコンペティション
日常(いま)と非常時(もしも)をつなぐデザイン 2026

一般部門では、すでに実現し、優れた役割を果たしているようなハードウェア(建築、広場等)やソフトウェア(まちづくり活動)の事例を募集します。対象となる条件を厳密には定めませんので、少しでも「日常と非常時をつなぐ」という観点でアピールできそうな事例であればどのようなものであっても構いません

学生部門では、学生を対象に、架空のアイデア、構想、あるいは研究活動として実際にまちと関わり試みているプロジェクトなどを募集します。「日常と非常時をつなぐ」というキーワードに結び付くアイデアであれば何でも結構ですので、自由にアグレッシブにご提案ください

審査員

一般部門



市古 太郎



岩瀬 諒子



田中 元子



三井所 清典

モデレーター



山本 想太郎

両部門審査員



連 健夫

学生部門



泉山 聖威



田島 則行



津川 恵理



栢澤 麻利

HP・詳細はこちら



一般部門 ※詳細について、かならずコンクールHPにある要項をご確認ください

応募資格者

以下の①～③を満たす個人や団体、自治体等。

- ①応募する作品、活動等のデザイン、企画、運営、マネジメントのいずれかに関わった者であること
- ②応募者を代表として本応募を行うこと、また各関係者の情報、プロジェクトの情報等が本コンクールを通して公開されることについて、対象物の所有者およびプロジェクトの各関係者の同意を得ていること
- ③2026 年 10 月 25 日（日）総合資格学院新宿校にて開催される公開審査会に代表者が現地参加できること（一次審査を通過した場合）

作品条件

- プロジェクトデータはプレゼンテーションシート (PDF ファイル A3 横使い 1 枚) か、動画、またはその両方で作成してください。
- 以下の①～⑥の全てを満たすことを応募作品の条件とします。
- ①建築・まちづくりに関する、日常と非常時をつなぐデザインであること
 - ②すでに実現しているものであり、建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのいずれか、または両方を含むこと
 - ③提出物（プロジェクトデータ）内に以下の内容を正確に示すこと
プロジェクト名称（施設名・活動名・システム名等）／所在地または対象エリア／完成・実施年／関係者（団体）概要（事業者・所有者・設計者・企画者・施工者・運営者・協力者等）／建造物の構造・規模等
 - ④コンセプトやプロジェクトの全体像が、わかりやすく示されていること
 - ⑤提出物に用いる写真や図版に他者の著作物を用いる場合は、著作権者の許可を得ていること
 - ⑥個人のプライバシーや個人情報等に配慮すること

応募方法とスケジュール

- 9月15日
STEP 1 | 応募者データ登録（2026 年 ~~8月31日~~ 23:59 まで）
ホームページより応募者データ、作品データを登録する
- STEP 2 | プロジェクトデータ提出（2026 年 9 月 15 日 23:59 まで）
ホームページよりプロジェクトデータを提出する
- 一次審査提出物（以下のいずれか）
- A_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚（10MB 以内）
B_ 動画 3 分以内（600MB 以内）
C_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚（10MB 以内）
+ 動画 90 秒以内（300MB 以内）
- ※動画のデータ形式については mov もしくは mp4 としてください。

登録・提出ホームページ

- <https://jcaabe.org/contest/contest2026/> (QRコードを参照)
- ・公開審査会（一般部門）
内容：上位作品 7 点の応募者によるプレゼンテーション
日時 2026 年 10 月 25 日（日） 14：00～17：00（17：00～18：00 懇親会）
場所：総合資格学院 新宿校（東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 3F）
- ・作品展示会
内容：一般部門、学生部門の受賞、入賞作品（各 10 点）を公開展示します
日時：2026 年 11 月 19 日（木）～ 24 日（火） 12：00～18：00（最終日は 17：00 まで）
場所：東京 TONKAN（東京都文京区湯島 1-7-9 御茶ノ水ウチャマビル 1F）



審査員

- 市古太郎 東京都立大学都市環境科学研究科教授／JCAABE 特別顧問
岩瀬諒子 建築家／岩瀬諒子設計事務所主宰／京都大学助教
田中元子 株式会社グランドレベル 代表取締役社長
三井所清典 建築家／アルセッド建築研究所主宰
連健夫 JCAABE 代表理事／建築家
山本想太郎（モデレーター） 建築家／山本想太郎設計アトリエ／JCAABE

本コンクールについてのご連絡先

- 「JCAABE 建築まちづくりデザイン・コンクール実行委員会」
一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構内
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-11-4 日本橋吉泉第二ビル 5 階
電子メール jcaabecontest@gmail.com

学生部門 ※詳細について、かならずコンクールHPにある要項もご確認ください

応募資格者

- 以下の①～③全てを満たす個人やグループ。※グループ応募の場合はメンバー全員が条件を満たすこと
- ①2026 年 4 月 1 日の時点で、大学院、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校（各種学校）の学生
 - ②2026 年 10 月 25 日（日）総合資格学院 新宿校にて開催される公開審査会に代表者が現地参加できること（一次審査を通過した場合）
 - ③2026 年 11 月 5 日（木）春日井市商工会議所にて開催される「住まいのGoodAirEXPO」での公開プレゼンテーションに代表者が現地参加できること（最優秀作品に選定された場合）※交通費については支給予定

作品条件

- 作品データはプレゼンテーションシート (PDF ファイル A3 横使い 1 枚) か、動画、またはその両方で作成してください。
- 以下の①～⑧の全てを満たすことを応募作品の条件とします。
- ①建築・まちづくりに関する、日常と非常時をつなぐデザイン・アイデアであること
 - ②建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのいずれか、または両方に対する提案を含むこと
 - ③実在する特定の場所（国内）を想定していること
 - ④作品には必ずタイトルを付け、明記すること。またコンセプトや全体図 (CG やイラスト、図面や模型写真等) がわかりやすく示されていること
 - ⑤現在進行中のプロジェクトや、すでに実施したプロジェクトの応募も可
 - ⑥提出物に用いる写真や図版に他者の著作物を用いる場合は、著作権者の許可を得ていること
 - ⑦個人のプライバシーや個人情報等に配慮すること
 - ⑧提出シートデータ、動画データ内には、氏名や大学名など応募者が特定できる情報を記載しないこと

応募方法とスケジュール

- 9月15日
STEP 1 | 応募者データ登録（2026 年 ~~8月31日~~ 23:59 まで）
ホームページより応募者データ、作品データを登録する
- STEP 2 | 作品データ提出（2026 年 9 月 15 日 23:59 まで）
ホームページよりプロジェクトデータを提出する
- 一次審査提出物（以下のいずれか）
- A_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚（10MB 以内）
B_ 動画 3 分以内（600MB 以内）
C_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚（10MB 以内）
+ 動画 90 秒以内（300MB 以内）
- ※動画のデータ形式については mov もしくは mp4 としてください。

登録・提出ホームページ

- <https://jcaabe.org/contest/contest2026/> (QRコードを参照)
- ・公開審査会（学生部門）
上位作品 7 点の応募者によるプレゼンテーション
日時：2026 年 10 月 25 日（日） 10：00～12：30（12：30～13：30 懇親会）
場所：総合資格学院 新宿校（東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 3F）
- ・作品展示会
内容：一般部門、学生部門の受賞、入賞作品（各 10 点）を公開展示します
日時：2026 年 11 月 19 日（木）～ 24 日（火） 12：00～18：00（最終日は 17：00 まで）
場所：東京 TONKAN（東京都文京区湯島 1-7-9 御茶ノ水ウチャマビル 1F）
- ・「住まいの GoodAirEXPO」における公開プレゼンテーション
最優秀賞の受賞者の公開プレゼンテーション（10 分間）とトークイベント
日時：2026 年 11 月 5 日（木） 15：00～16：00（詳細は後日調整）
場所：住まいの GoodAirEXPO 会場
（春日井市商工会議所：愛知県春日井市鳥居松町 5 丁目 4 5）※交通費については支給予定



審査員

- 泉山聖威 日本大学理工学部建築学科准教授／一般社団法人ソトノバ Co-CEO & Founder
田島則行 千葉工業大学教授／テレデザイン代表
津川恵理 建築家／ALTEMY 代表
柝澤麻利 建築家／SALHAUS 共同主催
連健夫 JCAABE 代表理事／建築家
山本想太郎（モデレーター） 建築家／山本想太郎設計アトリエ／JCAABE

JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構は良質な建築・美しいまちづくりを目指して設立された社会課題解決型の一般社団法人です。大切に行っているのは、**つなげる**、です。空き家、空き地の課題や、まちづくりの課題には、人と人を**つなぐ**と共に、建築とまちづくりを**つなげる**、ことが必要です。この中で、専門家は同じ目の高さで関わり、人々の参加を推し進め、持続可能な建築まちづくりを目指すファシリテーターの役割が求められます。当コンクールのテーマは、日常と非常時をつなぐデザインです。一般部門は既に建っている建築、現在行われているまちづくり活動を対象とするコンクール、学生部門はアイデアコンペです。多くの参加を期待しています。

※JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座は2024年度日本建築学会教育賞、2023年度工学教育協会工学教育賞を受賞しました。

建築まちづくり委員会

まち歩きから千葉の街を捉える

—地域を活かす建築家のファシリテーション—



むらじ
連 健夫
JIAまちづくり会議
副議長



松村哲志
建築まちづくり委員会
委員長

JIA建築家大会2025千葉において、JIAまちづくり会議、関東甲信越支部・建築まちづくり委員会、日本建築まちづくり適正支援機構(JCAABE)との協働で、JIAマンス企画でのオンラインシンポジウムと本大会でのまち歩きワークショップを実施しました。今回は、本大会のまちづくり系トークセッションS02「千葉のまちの真ん中をデザインする」があり、その準備を半年前から行い、市民活動家や行政と情報交換をする中で、千葉の現状理解を含め、議論の下地を作ることができました。千葉市では、ウォカブルなまちづくりを推し進めているとともに、「市民自治によるまちづくり条例」によるまちづくり方針があり、その特徴と課題も浮き彫りになりました。

グランドレベルはプライベートとパブリックの交差点

大会に先立ち行われたJIAマンスのオンライン企画として、10月3日(金)に「グランドレベルで千葉市のまちづくりを考える／地域を活かす建築家のファシリテーション」をテーマにシンポジウムを開催しました。

建築コミュニケーターの田中元子氏からは、喫茶ランドリーで生じているさまざまな出来事や出会いの紹介とともに、建築体操→パーソナル屋台→アーバンキャンプ→東京ベンチプロジェクトなどが説明されました。グランドレベルはプライベートとパブリックの交差点であり、人口が少なくなったとしても街に人がいることを可視化することが大切、人はベンチに座ると何かをしている、それが街を優しくしている、などが指摘されました。

千葉市まちづくり課の長島哲治課長からは、千葉市が推進する「ウォカブルなまちづくり」について、自動車から人を中心にした街を目指し、歩きたくなる街づくりの中で市民の健康や交流に役立てたい、中央公園プロムナードではパレットテラスを設置し、人がたたずめる



グランドレベルにある喫茶ランドリー



喫茶の中にランドリーがある

場を作っています。また、空き家活用などさまざまな課題があり、建築家をもっとまちづくりに参加してもらいたいとのメッセージがありました。

田島則行氏(千葉工業大学教授)からは、大規模ショッピングセンターの問題として、ただ人が集まってもコミュニティは生まれない、日常の延長の中で人の繋がりが生まれ、それが良好なコミュニティになる、その意味で、グランドレベルとウォカブルは大切なキーワードであるとのコメントがありました。

筆者からはデザインができる建築家をもっとまちづくりに関わる必要があるが、それは上から目線ではなく、市民の目で街を捉えることが大切である、赤坂のまちづくり協議会や東日本大震災における復興まちづくり、カイト旧市街の保存まちづくりの事例を通して、人と人を繋ぐファシリテーション能力の必要性を説明しました。

ディスカッションの中で、デンマーク・オーフス市で暗渠になっていたオーフス川を復活させることにより、街が活性化した事例が紹介され、歴史の再生行為が人の賑わいを生むというデザインの重要性が浮き彫りになりました。グランドレベルは大切で、そこをうまくデザインすることによりパブリックとプライベートをオーバーラップさせることが可能となります。それには専門家がファシリテーター(調停者・促進者)として市民と行政を繋ぐ役割が大切、ということが共有されました。

(連 健夫)

まち歩きワークショップーこれから続く種まきを意識してー

大会1日目の11月7日(金)、まちづくりワークショップ「まち歩き 千葉の「たから」と「あら」を考え、提案しよう!」を開催しました。

ワークショップに先立ち準備する事項として、まち歩きのルート設定があります。ルートは大切であり、ワークショップの成功を握る鍵です。大切なことは、住民・市民の目線に立って情報を集め、今、必要とされていることを専門家として理解し、設定することです。今回は建築家大会に向けての準備を地域との繋がりを大切にしている大会実行委員会、そして何より普段から地域と連



「たから」「あら」を集めるまち歩き



ディスカッション・提案 まとめ作業



グループ発表と講評

携して活動しているJIA千葉地域会の皆様の情報とネットワークがルートづくりの大きな手助けとなりました。行政の方、地元建築家、委員会メンバーなど幅広い人から意見をいただきましたが、その中に印象的なものがありました。「大会は今年だけ、まちづくりは続いていく」という言葉です。まち歩きが次に繋がっていく一つの“小さなフック”となるよう、住民目線を大切に幅広い意見を聞くことを心がけました。

当日は千葉駅に集合。3ルートに分かれ、前半はまち歩き。千葉駅から大会会場までの道のり、官庁街を抜けて辿り着く表の顔ルート①。その左右、JRに挟まれ、川、モノレールなどが走り、古くからの繁華街ルート②。千葉中央駅を含み飲食店などが広がるルート③。それぞれ、まちの「たから」「あら」を集め、グループディスカッション・提案を行う大会会場千葉県文化会館に辿り着きました。

後半のグループディスカッションがスタート。みなさん真剣ですがどこか楽しそうに「たから」を活かす、「あら」を改善する提案をまとめ、発表を行い、まとめの提案を千葉市まちづくり課にお渡しし、大盛況のうちにワークショップを終えました。

今回の参加者には地元、千葉工業大学の学生やこの地域で実際にまちづくり活動を行うプレイヤーの方も参加していただきました。JIAは多くの地域で活動する建築家が在籍します。その繋がりこそがこれから続くまちづくりへの種まきになると強く感じるまち歩きワーク

ショップとなりました。

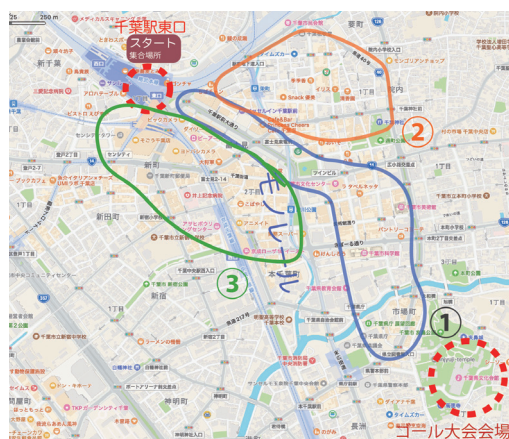
(松村哲志)

大ホールでのS02「千葉のまちの真ん中をデザインする」

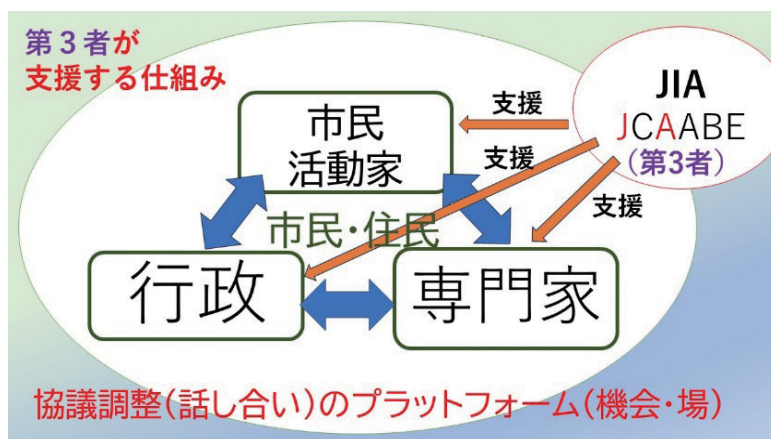
大会2日目の11月8日(土)にはトークセッションS02「千葉のまちの真ん中をデザインする」を開催。千葉市のまちづくりの現状をJIA千葉地域会の飯沼竹一氏、千葉市大木戸孝也課長から説明された後、市民活動家(田中章さん、須藤雅之さん、田野恵さん、明里さん)から、千葉中央公園のイベントを通して見えた課題、道路を歩行者天国にして街路の活性化を図る中で感じるコミュニティの大切さ、子ども食堂を実施する中で求められる行政支援、以前歓楽街であったところの再解釈や楽しみ方の紹介がありました。松浦健治郎氏(千葉大学准教授)からは、千葉の中心を流れる葭川をグランドレベルと繋げる「ヨシカワリバーアクション」の報告がありました。

ディスカッションでは、行政、市民活動家、専門家、教育機関の関係性、さらにはJIAやJCAABEなど第三者の専門家団体からの支援も含め、一般の市民が定期的にまちづくりについて話し合うことができるプラットフォームの必要性が指摘されました。千葉市には「市民自治によるまちづくり条例」という素晴らしい枠組みがありますが、それを活かすにはプラットフォームづくりが大切で、それが神谷俊一市長からの挨拶で共有できたことは大切な成果です。これも柳田富士男氏や寺川典秀氏を含めたJIA千葉地域会メンバーの事前努力があったからであり感謝する次第です。

(連 健夫)



まち歩きのルートマップ



協議調整のプラットフォームの必要性